

家畜感染症学会誌第9巻2・3号合併号の発刊にふれて

この度、家畜感染症学会誌2020年度第9巻の2号は、同巻3号と合併して発刊することとなりました。このような運びとなりましたのは、新型コロナウイルスの拡大状況から6月に開催を予定しておりました第10回シンポジウムおよび15周年記念大会を12月の学術集会にスライドさせる決定に伴いまして、編集作業も追従して検討して合併号とすることにさせて頂きました。会員の皆様には、ご理解とご了解を賜われれば幸いです。

合併号では6報の学術論文を掲載がなされております。また総説として、コロナウイルス関連（岡林先生、宮崎大）、ウマの感染症（帆保先生、鹿児島大）、乳汁中の抗菌ペプチド（磯部先生、広島大）の3報を掲載することができました。もちろん併せて2号分という単純なことではないと承知しておりますが、家畜感染症学における学術的な論文と、我々が現在のコロナ禍にある中で知識として持っておきたい内容の総説を含めて編纂できたのではないかと考えております。今回はあくまでもコロナ禍でのイレギュラーな対応です。今後は家畜感染症学会の活動が平常に戻ることを願い、並行して家畜感染症学会誌もコンスタントに発刊できるように編集委員一同努力してまいります。

このように皆様に発信できる機会に一つ編集委員会からお願いを申し上げます。最近本学会誌における学術論文の投稿が低迷しております。その一方では、今年7月1日に農林水産省による飼養衛生管理基準の改正も行なわれ、家畜の感染症あるいは伝染病の予防について特に注意を払うことが今後一層求められます。それにあわせて家畜感染症の予防に対しての知識や有効な予防対策の知識が求められるようになります。このような要求には、我々の家畜感染症学あるいは学会誌が率先して取り上げ、また応えてゆくべき学術的なテーマではないかと考えております。会員の皆様には家畜の生産現場または関連の研究に従事しておられる畜産あるいは獣医の関係者が多くおられます。是非家畜の感染症防除に関する新規性のある事象を学術論文としてまとめて頂き、ご投稿をご検討して頂ければと考えております。

何卒よろしくごお願い申し上げます。

家畜感染症学会誌
編集委員長 林 智人